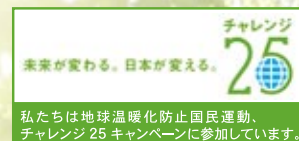


# KONDOTEC REPORT

平成 21年 4月 1日～平成 22年 3月 31日

第58期報告書



コンドーテックは地球温暖化防止のための国民的プロジェクト「チャレンジ25」に加盟し、企業理念にあります「豊かな社会づくりに貢献します」を  
実践すべく環境問題に取り組んでおります。



コンドーテック株式会社

証券コード 7438

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ここに当社第58期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の営業の概況と決算につきましてご報告申し上げます。

よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。



平成22年6月

代表取締役社長 菅原 昭

## ■ 当事業年度の業績

平成22年3月期の業績結果

**売上高** 27,347 百万円  
(前事業年度比 △17.8%)

**営業利益** 933 百万円  
(前事業年度比 △51.1%)

**経常利益** 986 百万円  
(前事業年度比 △48.4%)

**当期純利益** 664 百万円  
(前事業年度比 △39.4%)

### 【売上高】

当事業年度におけるわが国経済は、政府の経済対策や新興国経済の回復に牽引され、輸出や生産が増加していることなど一部に景気持ち直しの兆しが見えるものの、その勢いは力強さに欠け、設備投資の抑制や雇用・所得環境に改善が見られないなど、景気回復の実感がつかめないまま推移しております。

当社の関連業界におきましては、設備投資の抑制により工場などの建築物の着工は低迷し、同業他社との販売競争に一層拍車がかかるなど、当社を取り巻く環境は厳しい状況で推移しております。

このような状況のもとで、当社は製品の拡販、新規開拓や休眠客の掘り起こし、販売先におけるインスタシアの拡大など諸施策を講じてまいりました。その諸施策が奏効し、四半期ごとの販売数量は、当第4四半期会計期間が建築需要の閑散期でもあり数量は減少したものの、当第1四半期会計期間を底に当第3四半期会計期間まで回復基調で推移しました。その結果、当事業年度の売上高は製品が5,577百万円（前事業年度比24.6%減）、商品が21,770百万円（同15.8%減）となり、売上高合計は27,347百万円（同17.8%減）となりました。

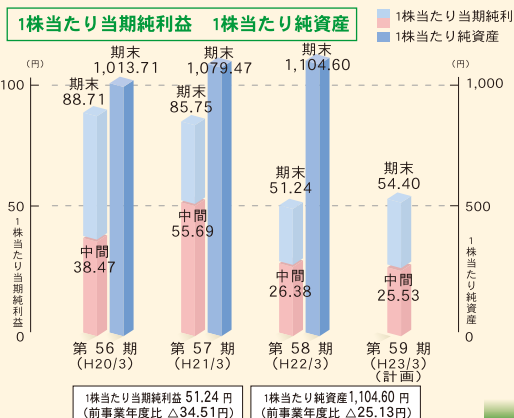
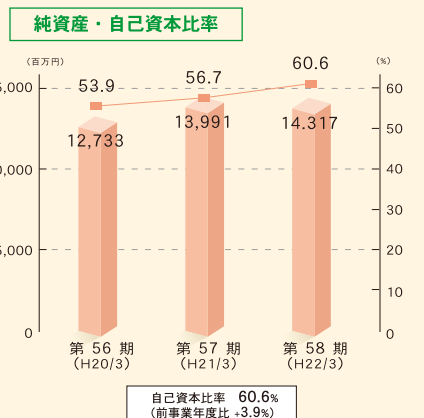
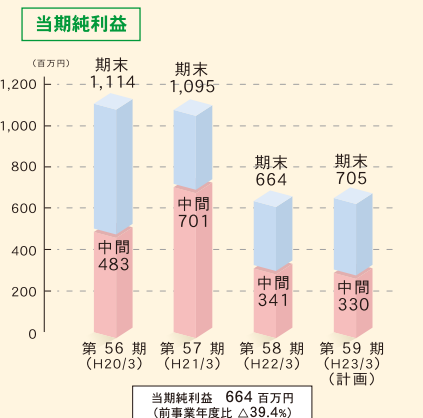
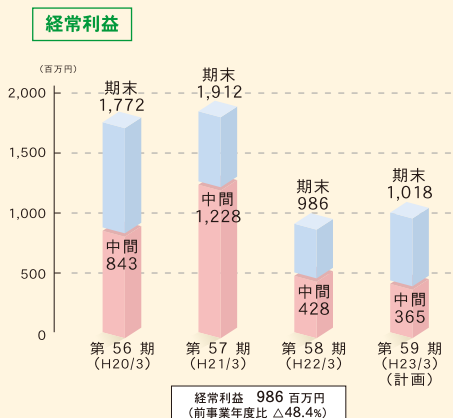
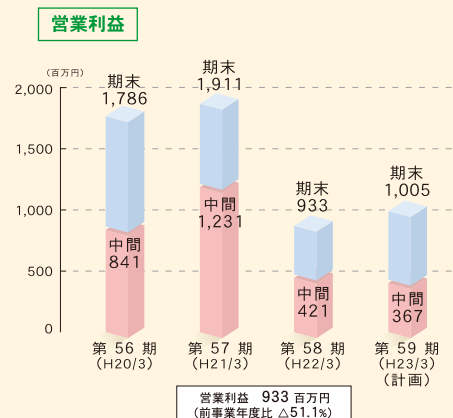
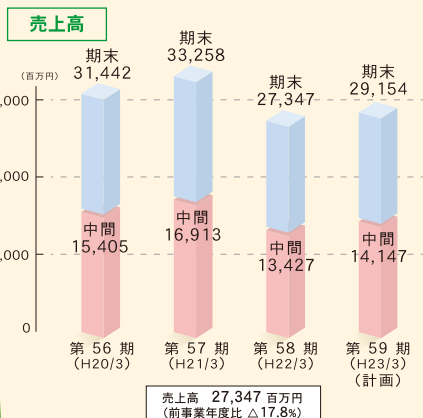
### 【利益】

利益につきましては、競争激化による販売価格の下げ圧力は依然として厳しい状況ではありましたが、鋼材などの原材料や仕入商品の価格引下げに努め、売上総利益率は前事業年度の22.2%と同水準で推移し22.1%となりました。販売費及び一般管理費におきましては、役員報酬の減額をはじめ販売管理費の削減を全社的に取組み、5,122百万円（同6.2%減）となりました。その結果、営業利益は933百万円（同51.1%減）、経常利益は986百万円（同48.4%減）、当期純利益は664百万円（同39.4%減）となりました。

### 【配当金】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な施策として位置づけ、「収益の向上」と「企業価値の増大」を図りながら、配当することを基本方針としております。

この方針のもと、平成22年3月期の期末配当金は1株につき13円とさせていただきます。



## ■ M&A による事業拡大

当社は、平成22年4月19日に電設資材卸業者「三和電材株式会社」の全株式を取得いたしました。

### ▶ 周辺業界への事業進出

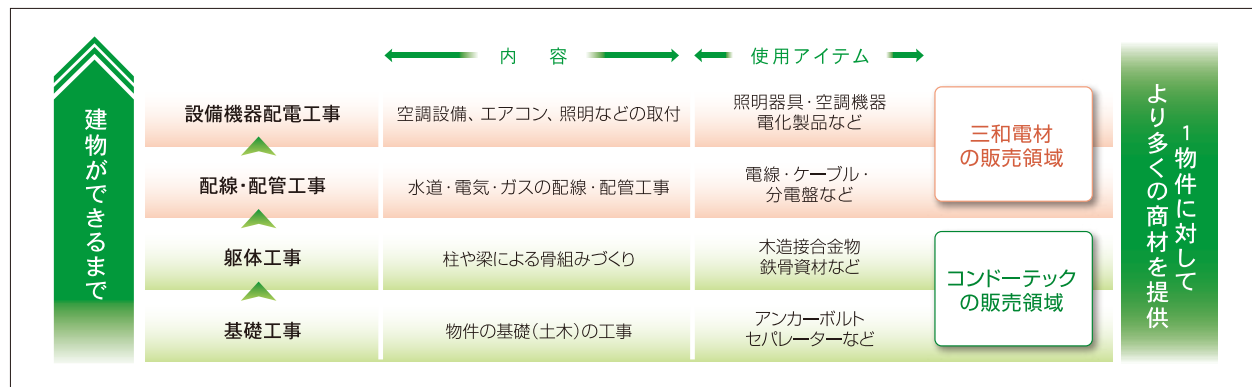
三和電材は中部圏を中心とした電設資材卸業者として、創業40年余りに渡り強固な顧客基盤を構築し、事業を拡大してきました。主な取扱商品は照明、空調・換気扇、電線等であり、今後は環境・エコ・スマートグリッド関連の成長分野へのビジネスにも期待できます。



LEDランプおよび照明器具 太陽光発電

両社の既存の商材・顧客基盤において重複する部分は少ないため、両社のシナジーを最大限発揮して事業拡大を図り、さらなる企業価値向上を目指します。

### ▶ 物件工事の初期と、終盤の商材を取扱うことにより 1 物件に対して一貫した販売体制の確立が可能に!



### ▶ 三和電材の商材 × コンドーテック販売網

中部圏を中心に販売を行っている三和電材の取扱う商品をコンドーテックの全拠点で販売し、また、三和電材がコンドーテックの製・商品販売することにより、両者の事業の拡大を図ってまいります。これにより、当社が新たに取扱う商材には、現在注目されている LED 電球や太陽光発電用パネルなどの省エネ関連商品などをはじめ、空調機器など電設資材約 3 万アイテムを取扱うことができます。



コンドーテック(株) 代表取締役社長 菅原 昭 三和電材(株) 代表取締役社長 吉田 勝彦

コンドーテックは三和電材と協力し、ますますの発展を目指します。

## ■ 次期の見通し

平成 23 年 3 月期の業績予想

	〈 単 体 〉	〈 連 結 〉
売上高	29,154 百万円 (前事業年度比 6.6%)	35,697 百万円
営業利益	1,005 百万円 (前事業年度比 7.7%)	1,056 百万円
経常利益	1,018 百万円 (前事業年度比 3.3%)	1,123 百万円
当期純利益	705 百万円 (前事業年度比 6.2%)	721 百万円

次期の見通しにつきましては、引続き新興国経済の回復に牽引され、輸出や生産が持ち直し、雇用や設備投資へも緩やかに回復の動きが波及していくものと期待されますが、景気を自律的回復軌道に乗せるには力強さに欠け、景気低迷は当面継続するものと見込まれます。

当社の関連業界におきましては、建築物などの需要の回復は依然として途半ばの低水準の状態が続き、また、新興国を中心とした世界景気の回復を背景に原油、石炭、鉄鉱石等の原材料価格で上昇の動きが強まっていることなど、予断を許さない状況が続くと思われれます。

このような状況のもとで、当社は受注競争、価格競争に耐えうるコスト競争力を高め、自社製品・輸入商材・新商材の拡販と新規販売先の開拓の四つの重点施策を実行するとともに、新たな業種・業態への積極的な販売活動を推し進めてまいります。

### 三和電材の概要

- ▶ 社 名 三和電材株式会社
- ▶ 本 社 名古屋市西区坂井戸町 180 番地
- ▶ 設 立 昭和 47 年 6 月
- ▶ 資 本 金 2 億 8,400 万円
- ▶ 年 商 63 億円 (平成 21 年 10 月期)
- ▶ 従 業 員 106 名 (平成 21 年 10 月 31 日現在)
- ▶ 事業内容 電気設備資材卸売業

### ▶ 取扱商品

照明器具、空調機器、分電盤機器、電線、ケーブル、各種換気扇、IH キッキングヒーター、エコキュート、情報通信機器、ブレーカー、OA フロア、太陽光発電など

### ▶ 営業拠点



## TOPIC 1 社会貢献活動の実施

昨年に引き続き、新入社員教育のプログラムの一環として、平成22年4月に大阪いずみの森（大阪府泉佐野市）にて森林保全のボランティア活動を行いました。当日は、大阪みどりのトラスト協会のボランティアの方のご協力のもと、間伐作業と遊歩道（階段）づくりを行いました。

また、当社は発展途上国へのポリオワクチン代の寄付を目的とした、ペットボトルキャップの回収活動や、売上の1%が寄付される自動販売機の設置等も継続して行っております。

今後も、積極的に社会貢献活動を実施してまいります。



## TOPIC 2 個人投資家向け会社説明会の実施

当社では、個人投資家の皆様を対象とし、当社への理解を一層深めていただくために、個人投資家向けの会社説明会を開催しております。

平成22年5月には名古屋にて、個人投資家向け会社説明会を行い、多数の個人投資家の皆様に参加していただきました。

今後も、個人投資家の皆様との対話を継続的に行ってまいります。

平成22年5月12日	平成22年5月18日
会場：野村證券(株) 名古屋駅前支店 (名古屋市中村区)	会場：野村證券(株) 名古屋支店 (名古屋市中区)
出席人数：約70名	出席人数：約60名

### ●会社説明会の模様をインターネットにて動画配信

直接会場へ足を運ばれなくとも、当社が行いました会社説明会の模様は、当社ホームページからご覧いただくことができます。



## TOPIC 3 新基幹システムの稼働

平成22年4月より、販売、生産、貿易、在庫管理などから成る新基幹システムを導入いたしました。これより、業務の標準化、効率化、内部統制対応の強化などを図り、さらなる企業価値を高めてまいります。



当社では、様々な場面で使用されますおよそ40,000点の製・商品を扱っております。その中の一部のアイテムをピックアップし、ご紹介いたします。

## ■高性能液体吸収材「SPC」

### 油流出事故などの環境汚染から地球を守る!!

船舶の座礁をはじめとする海洋や河川などでの油流出事故は、自然環境への深刻なダメージが予想され、大きな社会問題となっております。このような事故の際、油などの除去作業に大きな力を発揮するのが、当社が取扱う高性能液体吸収材「SPC」です。



油が流出した場合は、まず、オイルフェンスなどで周囲を取り囲み、水をはじき、油のみを吸収させることができる高性能液体吸収材「SPC」を吸着マットとして使用することにより、効率的に油の回収を行うことができます。

### ●他にはこんなところで使用されています。

化学物質などあらゆる液体を吸収できるものなど、用途に合わせて各種揃えております。



分離槽の浮上油の除去



オイルピットでの油受け



工場内での危険物の除去



パイプの漏油処理

## 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当事業年度 (平成22年3月31日現在)	前事業年度 (平成21年3月31日現在)	増減
<b>■資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>13,943</b>	<b>15,233</b>	<b>△1,290</b>
① 現金・預金	3,234	3,898	△664
② 受取手形	4,159	5,323	△1,164
売掛金	3,406	3,483	△76
③ たな卸資産	1,878	2,186	△307
④ 信託受益権	976	—	976
その他の流動資産	336	395	△59
貸倒引当金	△49	△53	4
<b>固定資産</b>	<b>9,672</b>	<b>9,433</b>	<b>239</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>7,854</b>	<b>7,733</b>	<b>121</b>
⑤ 建物・土地	7,083	6,823	259
その他の有形固定資産	770	909	△138
⑥ 無形固定資産	203	84	118
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,615</b>	<b>1,616</b>	<b>△1</b>
投資有価証券	1,430	1,442	△11
その他の投資等	258	266	△7
貸倒引当金	△74	△92	18
<b>資産合計</b>	<b>23,616</b>	<b>24,667</b>	<b>△1,051</b>

### Point ① 現金・預金

現金・預金の増減要因につきましては、次ページの「キャッシュ・フロー計算書」をご参照下さい。

### Point ② 受取手形

売上高の減少に伴い、受取手形は減少いたしました。

### Point ③ たな卸資産

在庫削減に努めた結果、たな卸資産は減少いたしました。

### Point ④ 信託受益権

余剰資金運用の一環として、当社の一括支払信託に係る信託受益権を取得したことにより、増加いたしました。

(単位:百万円)

科目	当事業年度 (平成22年3月31日現在)	前事業年度 (平成21年3月31日現在)	増減
<b>■負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>7,621</b>	<b>9,096</b>	<b>△1,475</b>
支払手形・買掛金	3,623	4,104	△480
⑦ 未払金	2,906	3,589	△682
未払法人税等	343	388	△45
⑧ その他の流動負債	747	1,014	△266
<b>固定負債</b>	<b>1,678</b>	<b>1,579</b>	<b>98</b>
退職給付引当金	1,177	1,004	173
その他の固定負債	500	575	△75
<b>負債合計</b>	<b>9,299</b>	<b>10,676</b>	<b>△1,376</b>
<b>■純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	<b>15,057</b>	<b>14,730</b>	<b>327</b>
資本金	2,328	2,328	—
資本剰余金	2,096	2,096	—
利益剰余金	11,131	10,804	327
自己株式	△498	△498	△0
評価・換算差額等	△740	△738	△1
その他有価証券評価差額金	821	828	△6
繰延ヘッジ損益	7	2	4
土地再評価差額金	△1,569	△1,569	—
<b>純資産合計</b>	<b>14,317</b>	<b>13,991</b>	<b>325</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>23,616</b>	<b>24,667</b>	<b>△1,051</b>

### Point ⑤ 建物・土地

埼玉営業所、新規事業関東営業所及び東京支店物流部門の移転のための土地・建物取得などにより増加いたしました。

### Point ⑥ 無形固定資産

基幹システム入替に伴いソフトウェアを更新したことにより、無形固定資産が増加いたしました。

### Point ⑦ 未払金

仕入の減少に伴い一括支払信託の残高が減少したことにより、減少いたしました。

### Point ⑧ その他の流動負債

賞与引当金などの減少により、減少いたしました。

## 損益計算書

(単位:百万円)

科目	当事業年度 (平成22年3月31日まで)	前事業年度 (平成21年3月31日まで)	増減
⑨ 売上高	27,347	33,258	△5,911
売上原価	21,291	25,883	△4,592
⑩ 売上総利益	6,055	7,374	△1,318
⑪ 販売費及び一般管理費	5,122	5,463	△341
<b>営業利益</b>	<b>933</b>	<b>1,911</b>	<b>△977</b>
<b>営業外収益</b>	<b>97</b>	<b>62</b>	<b>34</b>
受取利息配当金	8	4	3
仕入割引	13	20	△7
その他の営業外収益	74	36	37
<b>営業外費用</b>	<b>44</b>	<b>61</b>	<b>△17</b>
売上割引	36	47	△11
その他の営業外費用	8	14	△5
<b>経常利益</b>	<b>986</b>	<b>1,912</b>	<b>△925</b>
<b>特別利益</b>	<b>179</b>	<b>8</b>	<b>171</b>
固定資産除売却益	0	0	0
投資有価証券売却益	178	0	178
その他の特別利益	—	7	△7
<b>特別損失</b>	<b>9</b>	<b>26</b>	<b>△16</b>
たな卸評価損	—	14	△14
その他の特別損失	9	12	△2
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,156</b>	<b>1,893</b>	<b>△737</b>
法人税・住民税及び事業税	509	783	△273
法人税等調整額	△17	14	△32
<b>当期純利益</b>	<b>664</b>	<b>1,095</b>	<b>△431</b>

### Point ⑨ 売上高

設備投資の低迷に伴い、販売競争が続く厳しい状況下、当社は、新規開拓や休眠客の掘り起こし、販売先におけるインスタシェアの拡大などの諸施策を講じましたが、売上高は、前事業年度比 17.8%減となりました。

### Point ⑩ 売上総利益

売上総利益率は原材料や仕入商品の価格値下げに努め前事業年度の 22.2%と同水準の 22.1%となりましたが、売上高の減少により、売上総利益は前事業年度比 17.9%減となりました。

### Point ⑪ 販売費及び一般管理費

役員報酬の減額をはじめ、販売管理費の削減を全社的に取組み、前事業年度比 6.3%減となりました。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当事業年度 (平成22年3月31日まで)	前事業年度 (平成21年3月31日まで)
② 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,109	2,196
⑬ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,437	△391
⑭ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△336	△115
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額	△664	1,690
現金及び現金同等物の期首残高	3,898	2,208
現金及び現金同等物の期末残高	3,234	3,898

当事業年度における現金及び現金同等物の期末残高は、3,234 百万円となり、前事業年度と比べ 664 百万円の減少となりました。主な要因は次のとおりです。

### Point ⑫ 営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務及び賞与引当金の減少さらに法人税等の支払などによる減少要因はありましたが、売上債権及び棚卸資産の減少などによる増加要因により、1,109 百万円の収入となりました。

### Point ⑬ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の売却及び信託受益権の償還などの収入がありましたが、移転用の不動産、機械装置、ソフトウェア及び信託受益権の取得による支出により、1,437 百万円の支出となりました。

### Point ⑭ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払により、336 百万円の支出となりました。

- ▶ 社名 コンドोटেক株式会社  
(英文名 KONDOTEC INC.)
- ▶ 本社 大阪市西区境川二丁目 2 番 90 号
- ▶ 設立 昭和 28 年 1 月 14 日
- ▶ 資本金 23 億 2,810 万円
- ▶ 従業員 561 名

- ▶ 役員 (平成 22 年 6 月 29 日現在)
- 代表取締役社長 菅原 昭
- 常務取締役 平田 茂
- 常務取締役 安藤 朋也
- 常務取締役 滝水 莞爾
- 取締役 堀江 重男
- 取締役 近藤 勝彦
- 取締役 山田 清人
- 取締役 矢羽田 秀夫
- 取締役 宮 晴夫
- 取締役 (社外取締役) 徳田 勝
- 常勤監査役 河瀬 哲夫
- 監査役 (社外監査役) 稲田 龍一
- 監査役 (社外監査役) 北山 諒一

主要な事業内容

当社は、土木用・建設用・荷役用・船舶用金物、鋼材、溶接資材及び鉄螺の製造販売並びに輸出入を主な事業としております。

主な製品・商品 | The main product and commodity

**金物類**

ターンバックル、ブレース、シャックル、ワイヤクリップ、ロープ附属品、物流荷役機器、船舶・港湾関連資材



ターンバックル  
ブレース

駅での使用風景

**チェーン**

足場つりチェーン、ステンレスチェーン、強力チェーン、リンクチェーン、チェーンスリング



足場つりチェーン

高速道路の補修作業風景

**ワイヤロープ**

JISロープ、加工ロープ、繊維ロープ、ベルトスリング、モック、鋼より線



ロック止めワイヤロープ

テトラポッドを吊り上げる風景

**建設資材**

仮設足場、当板・本体、丸セパレーター、Uクリップ、アンカーインサート、鉄骨部材、現場用品、コンテナバッグ、木造用住宅金物



コンテナバッグの河川での使用風景

**鉄螺**

ハイテンションボルト、ボルトナット類、アンカーボルト、角フックボルト



アンカーボルト

高架橋の基礎工事風景

**その他**

機械工具、施工用品、環境関連資材、街路・緑化資材



ガーデングレート

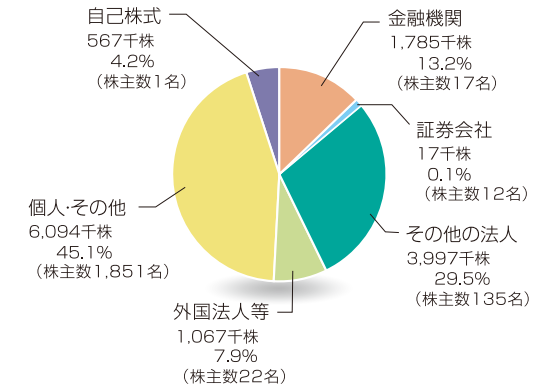
街路での使用風景

- ▶ 発行可能株式総数 30,000,000 株
- ▶ 発行済株式総数 13,528,500 株
- ▶ 株主数 2,038 名
- ▶ 単元株式数 100 株
- ▶ 大株主

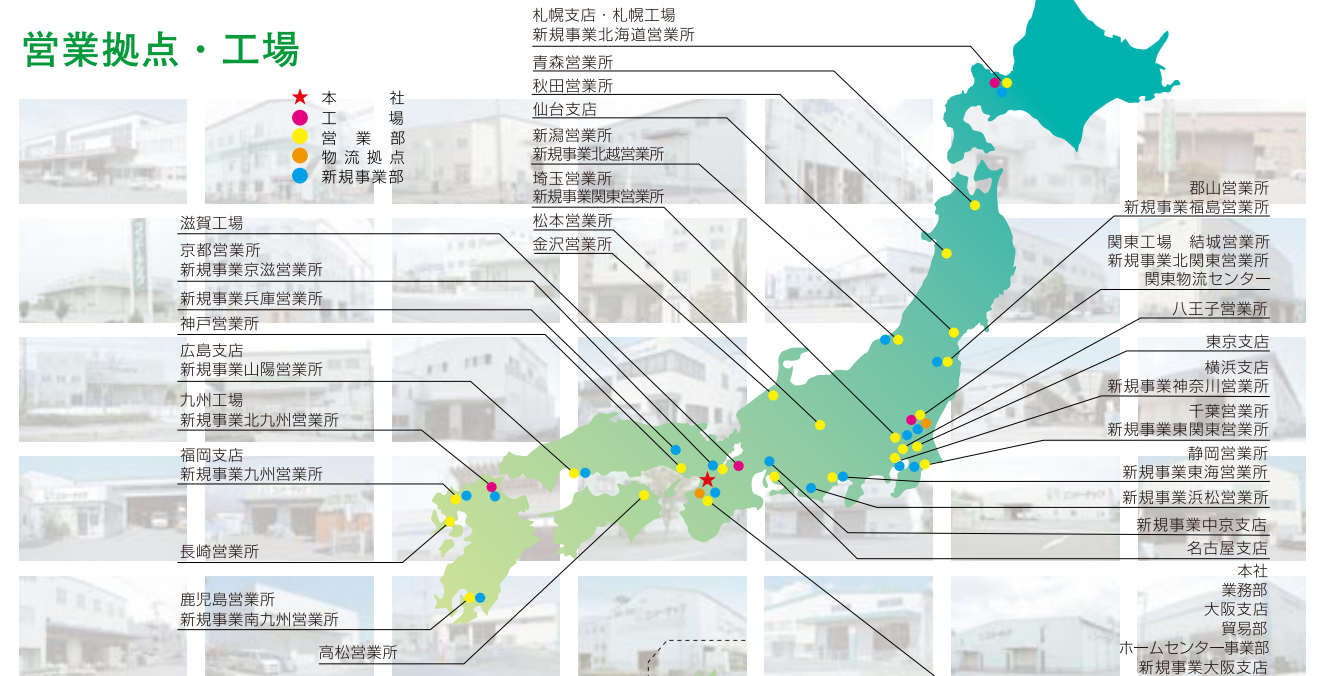
株主名	持株数	持株比率
(有)藤和興産	1,507千株	11.6%
ビービーエチフォーティファイブプライスストックファンド	951千株	7.3%
コンドोटেক社員持株会	693千株	5.4%
近藤 勝彦	668千株	5.2%
大阪中小企業投資育成(株)	643千株	5.0%
(株)Fプランニング	450千株	3.5%
近藤 純位	401千株	3.1%
(株)三菱東京UFJ銀行	376千株	2.9%
近藤 延滋	376千株	2.9%
近藤 雅英	332千株	2.6%

(注) 自己株式567千株は含めておりません。

所有者別株式分布状況



営業拠点・工場



## ■ コンドーテックホームページのご案内

決算ハイライト、決算説明会の動画配信、ニュースリリース、決算短信、有価証券報告書などの開示情報のほか、取扱製品・商品など様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧下さい。



インターネットホームページ

<http://www.kondotec.co.jp>

コンドーテック

検索

## ■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
☎ 0120-094-777 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第2部 大阪証券取引所市場第2部

### [株式に関する住所変更等のお届出およびご照会]

証券会社でお取引をされている株主様

■郵便物送付先・電話お問い合わせ先  
お取引のある証券会社になります。

※未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行  
本店および全国各支店でお支払いいたします。

特別口座に記録されている株主様

■郵便物送付先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
■電話お問い合わせ先 ☎ 0120-094-777 (通話料無料)  
■お取扱店 三菱UFJ信託銀行株式会社 本店および全国各支店



2010年6月発行

コンドーテック株式会社

〒550-0024 大阪市西区境川二丁目2番90号  
TEL 06-6582-8441 ir24@kondotec.co.jp

当報告書には財政状態および経営成績に関する将来予測の記述が含まれています。  
この前提および将来予測の記述には、経営を取り巻く環境の変化などによる一定のリスクと不確実性が含まれています。



この印刷物は、環境に配慮し、大豆インキを使用しております。